

避難生活で被害を拡大しないために！

**次の災害に備えるための
人材育成研修 および
『被災者支援拠点』運営訓練**

実 施 要 項

日 時

研 修：2015年8月11日(火)・12日(水)

拠点運営訓練：2015年9月 7日(月)・8日(火)

会 場

研 修：伊勢市立御菌公民館

拠点運営訓練：伊勢市御菌B & G海洋センター

主 催

公益財団法人 日本財団

共 催

三重県

1. 事業の趣旨

東日本大震災では最大で 30 万人を超える人々が、体育館や公共施設などで避難生活を送りました。避難所での生活環境はたいへん厳しく、命を落とす人も少なくありませんでした。震災関連死*と認定された 1,600 人を超える人々のうち、避難生活での疲労が原因とされる方は 3 割にのぼります（平成 24 年 3 月 31 日時点）。避難生活での危機的な状況の発生は、阪神・淡路大震災以降、何度も指摘されていながら、今回も回避できませんでした。せっかく助かった命が避難生活の中で失われてしまったことは、慚愧に堪えません。

そこで私たちは、食事や医療などの物資援助やがれきの片付けなどのボランティア活動の影に隠れがちな「避難生活の環境改善」に着目し、支援者や避難者自身も課題に気づきにくい多様なニーズに対応するための事業を立ち上げ、災害発生時に地域の被災者全体を支援する「被災者支援拠点」としての避難所のあるべき姿や、支援のあり方をモデル化して示す試みに取り組んでいます。

今回は、南海トラフ地震で大きな被害が想定されている三重県において、災害時に重要な役割を果たす人材の育成に取り組むための研修と、あるべき避難所の姿を過去の災害での経験を基に実際に再現された避難所で宿泊型の避難訓練を実施します。訓練で得られた知見を基に、三重県での「次の災害」に備えた実践的で具体的な避難所運営マニュアルの提言や、避難生活で被害を拡大しないための被災者支援のしくみづくりに臨んでいただくことを期待しています。

< 「震災関連死」とは？ >

家屋の倒壊や津波などによる直接的な原因ではなく、避難中の精神的・肉体的な疲労や持病の悪化、過労や自殺など、震災に関連して死亡することです。阪神・淡路大震災で初めて提起された概念で、約 1,000 人が認定された。避難所で水分摂取を控える高齢者などが、肺炎や血栓が引き起こして死に至るケースが多いといわれています。

< 「被災者支援拠点」とは？ >

避難所は生活の場としての機能とともに、被災した地域全体の物資や情報の拠点ともなります。従来は避難所内に生活している人に着目するあまり、在宅で避難を続ける被災者への支援が見落とされることがありました。そこで私たちは、避難所とその周辺の被災者を支援する拠点としての機能に注目するために、避難所の呼称を「被災者支援拠点」と改めることを提案しています。

2. 事業の概要

名称 | 次の災害に備えるための人材育成および『被災者支援拠点』運営訓練

日時 | 研修 : 2015年8月11日(火)・12日(水)

拠点運営訓練 : 2015年9月7日(月)・8日(火)

会場 | 研修 : 伊勢市立御園公民館

拠点運営訓練 : 伊勢市御園 B&G 海洋センター

主催 | 公益財団法人 日本財団

共催 | 三重県

定員 | 40名

想定する参加者 | 三重県内において、災害時に被災者支援をおこなう自治体や社会福祉協議会職員、地域組織、自治会、企業/NPO 担当者の方

<<参加申込み方法>>

下記のフォーマットをご使用になるか、又は、メールで下記の①～⑨までの項目についてご記入の上、参加申込み先までご連絡ください。

氏名		ふりがな	
所属先		所属先又は 自宅電話番号	
所属先又は 自宅住所			
緊急連絡用 電話番号		⑦生年月日 (西暦)	
性別		特記事項	

生年月日・性別は、保険加入・宿泊場所の手配をするため必要となります。

特記事項には、アレルギーや持病、その他委員会側で配慮が必要なことをご記入ください。

頂いた情報は、今回の研修および訓練のためだけに使用します。

参加申込み・お問い合わせ先 | 委員会 事務局 (一般財団法人 ダイバーシティ研究所)

E-MAIL : apply@diversityjapan.jp

TEL: 03-6233-9540 FAX : 03-6233-9560

受付時間 | 10:00～18:00 (土・日・祝日は休み)

申込期限 | 8月3日(月)

3 . 日本財団 被災者支援拠点運営人材育成事業とは

日本財団 被災者支援拠点運営人材育成事業は東日本大震災での支援活動経験をもとに、次の大規模災害に備える必要性を痛感して発足したプロジェクトです。

私たちは東日本大震災直後に、阪神・淡路大震災から継続して支援活動をおこなってきた団体として「被災者を NPO とつないで支える合同プロジェクト」を組織し、宮城県内の避難所を巡回して細かなニーズを確認して専門性の高い NPO につなぐ活動を展開しました。こども、高齢者、障がいを持つ方やアレルギーなどの疾患を持つ方等、被災者の誰もが安心できる避難所を運営し、また地域にとどまっている在宅被災者のために活動できる実践的なしくみと訓練の普及を目的として、地域の民間団体、自治体、企業と連携して活動しています。

<アドバイザー>

川北秀人（IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]）

青柳光昌（公益財団法人 日本財団）

田村太郎（一般財団法人 ダイバーシティ研究所）

前川典子（ダイバーシティせんだい、一般財団法人 ダイバーシティ研究所）

村野淳子（福祉フォーラム in 別荘・速見実行委員会）

横尾俊成（NPO 法人グリーンバード、NPO 法人スタンバイ、東京都港区議会議員）

<事務局>

川崎克寛（つなプロ気仙沼）

坂井公淳（感環自然村）

渡部慶太（特定非営利活動法人 石巻復興支援ネットワーク）

中村満寿央（一般財団法人ダイバーシティ研究所）

柳澤千恵子（一般財団法人ダイバーシティ研究所）

橋本葉一（公益財団法人 日本財団）

4 . プログラム概要

(1) 研修

日 時 | 第 1 日目 8 月 11 日 (火) 10 : 00 ~ 16 : 30 (受付開始 : 9 : 30)

第 2 日目 8 月 12 日 (水) 10 : 00 ~ 16 : 30

会 場 | 伊勢市立御園公民館 (伊勢市御園町長屋 1221)

プログラム |

【第 1 日目】

10:00 オリエンテーション

10:30 災害時対応の基礎 (講義)

< 内容 > 過去の災害における避難生活での被害拡大の事例、人口動態の変化予測を基に、今後求められる「被災者支援拠点」と災害時対応の在り方を理解します。

12:30 休 憩

13:30 災害時対応の基礎 2 (講義・ケーススタディ)

< 内容 > 災害時要援護者支援の基礎では、災害時に発生する多様なニーズへの対応方法について理解します。また、東日本大震災で実際起きたケースをもとに、長期化した避難生活での支援のポイントを理解します。

16:30 振り返り・終了

【第 2 日目】

10:00 ニーズの総量把握演習 (演習)

< 内容 > ・避難所開設から 1 週間後および 1 ヶ月後を想定し、多様なニーズの総量把握を行う演習を行います。

12:00 休 憩

13:00 ニーズの総量把握演習 (演習)

14:00 被災者支援拠点運営管理者の素養 (講義・グループワーク)

< 内容 > ・被災者支援拠点運営管理者として必要な素養を理解し、9 月に実施する拠点運営訓練に備えます。

16:00 まとめとふりかえり

16:30 終了

研修の講師およびファシリテーターは、スタッフが担当いたします。

研修の際、必要な持ち物は特にございませぬ。

参加状況によって、カリキュラムを一部変更することがございます。

会場内での水分補給は可能ですが、食事は禁止です。昼食は、各自でご対応願います。

駐車場に限りがありますので、できるだけ乗り合わせの上、お越し頂きますようお願いいたします。

(2) 拠点運営訓練

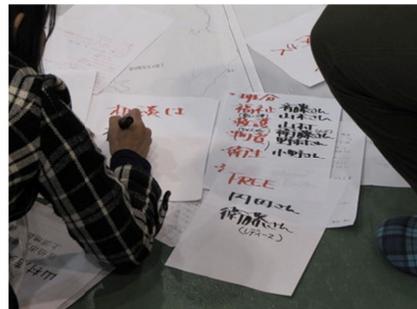
日 時 | 第1日目 9月7日(月) 15:00~21:30(受付開始 14:30)

第2日目 9月8日(火) 8:00~12:30

会 場 | 伊勢市御園 B&G 海洋センター(伊勢市御園町上條 1173-1)

内 容 | 2つのシナリオに基づく避難体験訓練

第1日目は発生直後の避難生活体験を、第2日目は震災から3日目の被災者支援拠点を想定した地域活動のシミュレーションを行います。シナリオは当日配布します。



2014年12月9・10日 大分県での訓練風景

参考 URL : <http://blog.canpan.info/tsugipro/archive/20>

<持ち物・留意点>

当日はライフラインが止まっている想定で、体育館で訓練を行い、就寝していただきます。会場には空調設備はありません。暗く、むし暑いことが予想されますので、懐中電灯をご持参の上、体温調整しやすい服装でお越し下さい。

会場内のスリッパは使用できません。上履きをご持参ください。

体育館内の水シャワーはご利用になれますが、石鹸・シャンプーは使用できません。

洗面所をご使用になれますので、タオル、洗面道具、コンタクトレンズの洗浄液等は必要に応じてご持参ください。

事務局にて訓練中の写真撮影、ビデオ撮影を行います。訓練中での振り返りや今後開催する訓練のための資料として使用します。参加者による訓練中の写真撮影は、訓練への集中の妨げになりますので、ご遠慮ください。

< 拠点運営訓練 プログラム(予定) >

9月7日(月)			
14:30	受付開始		
15:00 体育館	オープニング ・主催より訓練の主旨説明		
15:30	訓練オリエンテーション ・設備の使用について ・訓練の災害想定 ・Aチーム、Bチームへのチーム分け、役割カード配布 ・シナリオの演じ方 デモンストレーション		
16:30	訓練シナリオ開始 Aチーム、Bチームともに、ゴールは 「避難所開設」、「避難者名簿作り」、「夕食配布」		
	<table border="1"> <tr> <td>Aチーム ・伊勢市の標準的な備蓄物資を使用 ・参加者に「属性（高齢者、子連れの母親等）」、「健康状態（けが等）」を役割指定</td> <td>Bチーム ・標準的な物資に加えて、多様な避難者のニーズに対応した備品を追加で使用 ・班作り・名簿作りのマニュアルを使用 ・「属性」、「健康状態」に加えて、「避難所のためにできること」を役割指定</td> </tr> </table>	Aチーム ・伊勢市の標準的な備蓄物資を使用 ・参加者に「属性（高齢者、子連れの母親等）」、「健康状態（けが等）」を役割指定	Bチーム ・標準的な物資に加えて、多様な避難者のニーズに対応した備品を追加で使用 ・班作り・名簿作りのマニュアルを使用 ・「属性」、「健康状態」に加えて、「避難所のためにできること」を役割指定
Aチーム ・伊勢市の標準的な備蓄物資を使用 ・参加者に「属性（高齢者、子連れの母親等）」、「健康状態（けが等）」を役割指定	Bチーム ・標準的な物資に加えて、多様な避難者のニーズに対応した備品を追加で使用 ・班作り・名簿作りのマニュアルを使用 ・「属性」、「健康状態」に加えて、「避難所のためにできること」を役割指定		
18:00	ニーズアセスメントの実施 ・A、Bそれぞれの会場にアセスメント担当者が訪問し、室内の避難者のニーズを伺います。		
18:45	パターン A、パターン B の共有ワーク ・ふり返り ・アドバイザーによるコメント		
20:00	休憩（追加の夕食）		
20:45	就寝前の諸注意 ・シャワー、明日の朝食について		
21:00	終了、随時消灯・就寝		

9月8日(火)	
7:00	起床 ・就寝場所の清掃
7:30	朝食
8:00	オリエンテーション ・本日の訓練の想定説明(発災後3日目)
8:30	「避難所運営」および「地域活動」に関するグループワーク ・想定に基づいて避難所内の運営についてルールを策定する ・在宅被災者のニーズに対応するための巡回活動の計画を策定する
10:30	全体ふりかえり
12:30	2日目プログラム終了・解散 昼食の用意はありません。

5. プログラム終了後の展開について

- ・ 研修および拠点訓練のすべてに参加した方を「被災者支援拠点運営管理者」として認定します。「被災者支援拠点運営管理者」は災害発生時に避難所運営責任者をサポートしながら、避難所や周辺のニーズの全体像を把握し、専門家や専門的な NPO 等と連携して必要な支援をコーディネートすることを目標としています。
- ・ そのため、平常時には地域の専門家や専門的な NPO との連携やネットワーク構築を目指し、スムーズな支援活動ができるように準備することが大切です。また、大規模災害発生時には日本財団などから被災地へ派遣し、現地で支援活動に参加していただけないか、お問い合わせする場合があります。
- ・ さらには、本研修および拠点訓練のすべてに参加された「被災者支援拠点運営管理者」の中から、災害時に地域全体のニーズの把握や外部の専門団体との総合的なコーディネートを行う「災害時エリアマネジャー」としての研修も下記の日程で予定しています。候補者には、主に自治体職員や社協職員など、地域全体の運営支援も担うことを期待されている方を想定しています。したがって、当該研修の参加者については、主催者側で選考させていただき、候補となった方には改めてご案内させていただきます。

<災害時エリアマネジャー 養成研修>

日時：2015年9月29日(火)・30日(水) 両日とも 10:00~16:30

場所：みえ県民交流センター(津市羽所町700 アスト津3階)